

ノ ー ト

埼玉 SPF 豚センターにおける SPF 豚 飼 育 成 績

小 野 真 人*

さきにわたくしどもは本誌第1巻2号で、昭和45年夏季までの SPF 豚の飼育に関する成績を報告した。その後さらにこれに関する成績が追加されたので報告する。

材料および方法

1) 供試豚

供試豚は当場生産の Secondary I および II 豚464頭である。そのうち 34頭の発育成績については完全な調査を行なった。

2. 期間

昭和45年2月12日～46年3月31日

3. 飼料および管理方法

市販配合飼料の人工乳Bを体重 20kg まで原則として不断給餌として与えた。20kg から50kg まで育成前期用、50kg から90kg まで育成後期用をそれぞれ原則として制限給餌とした。発育成績の調査を行なった豚は、体重 20kg から他の豚と別個にし、1 腹毎に群飼した。

成 績

繁殖成績は表1に示す通りである。すなわち50腹464頭の分娩数に対して442頭の育成頭数が示され、その育成率は95.3%であった。

表 1 Secondary 豚の育成成績

品 種	分娩腹数	産 子 数			一平産子 頭均数	分娩時既死亡			生 後 死			育 成 率 (%)
		雌	雄	計		死産	黒子	奇形	衰弱死	病死	事故死	
L	26	133	101	234	9.3	8	0	0	7	2	3	94.8
W	9	45	46	91	10.8	4	1	0	2	0	0	97.8
F ₁	15	63	76	139	9.2	7	4	2	5	1	2	94.2
	50	241	223	464	9.3	19	5	2	14	3	5	95.3

発育成績は表2および表3に示す通りで、60日齢で平均23.7kgを示し、153日齢で90kgに達した。また20kgから90kgまでの飼育期間は97.7日を要し、その間の通算飼料要求率(FC)は30.6となっている。

考 察

表1からも明らかのように育成率95.3%を示したことは Conventional 豚のそれと比較してかなり好成绩といえるであろう。すなわちここで興味あることは、供試豚のへい死が3頭ときわめて少なく、育成率からみても SPF 豚と

* 埼玉種畜牧場 SPF 豚センター

表 2 Secondary 豚の発育成績

品 種	供試頭数	生 時	4 週	8 週	60 日	90 日	120 日	150 日	90 kg 到達日
L	♂ 3	1.13	6.3	21.8	24.0	41.4	64.0	91.5	149
L	♂ 3	1.39	7.9	23.4	24.6	40.6	60.5	86.5	153
L	♂ 4	1.38	7.6	21.1	23.5	40.7	57.8	81.4	161
F ₁	♂ 2	1.10	6.9	20.2	22.1	38.7	62.7	94.3	144
L	♂ 4	1.50	8.2	21.8	22.9	42.2	64.1	85.8	157
L	♂ 4	1.55	7.2	17.8	20.7	38.7	54.2	77.2	165
W	♂ 4	1.30	6.9	18.9	20.9	40.3	65.4	91.6	148
L	♂ 4	1.45	7.9	18.1	21.4	38.7	63.5	92.3	148
W	♂ 2 ♀ 2	1.40	9.8	26.1	30.0	53.0	74.2	93.2	146
L	♂ 2	1.51	7.3	23.6	26.5	46.6	69.3	85.5	158
		1.37	7.6	21.3	23.7	42.1	61.6	87.9	153

表 3 Secondary 豚の飼料要求率

品 種	20 kg 到達日	20kg~50kg			50kg~90kg			20kg~90kg		
		日 数	1日当り増体重	飼 料 要求率	日 数	1日当り増体重	飼 料 要求率	日 数	1日当り増体重	飼 料 要求率
L	53日	49	601	2.65	47	851	3.27	96	729	3.00
L	54	50	600	2.64	49	816	2.82	99	707	2.74
L	55	53	566	2.78	53	754	3.20	106	660	3.02
F ₁	56	49	601	2.50	39	1020	3.35	88	796	2.98
L	52	41	731	1.98	62	645	3.51	103	679	2.85
W	47	40	750	2.02	59	678	3.44	99	707	2.83
L	52	43	698	—	63	635	—	106	660	—
L	59	55	546	2.75	51	785	3.12	106	661	2.96
W	57	50	600	2.42	40	1000	3.36	90	778	2.96
L	59	43	698	2.56	47	852	4.57	90	778	3.71
平均	544	47.3	639.1	2.59	51	803.6	3.40	97.7	715.7	3.06

しての有意性が十分に発揮されているとみてよいことである。へい死の大半は、哺乳介助をほとんどしていなかったために、虚弱豚が吸乳能力なく死の転帰をとったためである。

発育成績は SPF 豚としては理想値に近い成績がでていると思われるが、市販の配合飼料で

は厚脂になりがち傾向がみられる。これらのことから生後 160 日から 165 日で 90kg に到達し、飼料要求率 3.00 から 3.20 を一応の目安として飼育基準を作るという方向を目下検討中である。